

平成11年度 病虫害発生予察 特殊報 第1号

病虫害名： トラファザミウマ

Hydatothrips (Neohydatothrips) pseudoannulipes

対象作物： マリーゴールド

1. 特殊報の内容

マリーゴールドにおいてトラファザミウマの発生を都下で初めて確認した。

2. 発生経過

- (1) 1999年10月14日町田市において、露地栽培およびポット栽培中のマリーゴールドに高い密度で寄生し吸汁加害しているアザミウマを確認した。採集調査したところトラファザミウマ(ハラオビアザミウマ属)であった。
- (2) 本種は1993年11月に日本では初めて静岡県で確認され、静岡県病虫害防除所において1998年11月に特殊報が発表されている。
- (3) 本年10月下旬までに立川市および江戸川区においても花壇のマリーゴールドで発生を確認した。

3. 形態・生態・分布

- (1) 成虫を肉眼で見ると黒地の体色に灰白色の横縞が目立つため既知種とは容易に区別できる。成虫の体長は約1.2mmである。若齢幼虫は白色で、成長すると黄橙色となる。
- (2) 静岡県病虫害防除所によると本種は現在までマリーゴールドでのみ寄生が確認されている。また、発生はマリーゴールドが野外で生育する4月下旬～12月まで数世代を繰り返す。特にマリーゴールドの生育の盛んな9～10月に発生が多い。
- (3) 本種は、すでに静岡県下全域および関東各地で確認されている。発生経過などから、すでに都下全域に分布しているものと考えられる。

4. 被害

- (1) 成虫及び幼虫は葉に寄生し、吸汁加害する。寄生を受けるとかすり症状が発生し、同時にシルバリングも呈する。多発状態ではさらに排泄物等によって著しく汚れる。花には寄生しない。
- (2) 9～10月の多発時には、株の枯死が観察された。
- (3) 本種の寄生により、新芽の生育が抑制されたとの報告がある。

5. 防除対策および注意

- (1) マリーゴールドに対する登録薬剤は無いが、花き類のアザミウマ類に対してマラソン乳剤(家庭用他)が登録されている。
- (2) 特に花壇苗等生産農家においては出荷前に発生を確認する必要がある。



第1図 マリーゴールド被害状況



第2図 マリーゴールド被害状況



第3図 トラフアザミウマ成虫



第4図 トラフアザミウマ幼虫